

あの日のこの歌

# 椰子の実

作詞 島崎藤村  
作曲 大中寅二

名も知らぬ遠き島より  
流れ寄る椰子の実二つ  
故郷の岸を離れて  
汝はそも波に幾月



イラスト 大高椰子

民俗学者の柳田国男は、大学生の時、愛知県の伊良湖岬の浜辺で、南の島から漂着した椰子の実に三度遭遇しました。

帰京した柳田が、友人の島崎藤村にそのことを話したところ、大いに感銘を与えました。故郷を離れて転々としていた藤村は、漂流する椰子の実にわが身を重ね、この詩を書きました。

明治三十三年、『新小説』六月号に発表、翌年『落梅集』に収められました。長い年月が過ぎ、大中寅二がJOBK（大阪中央放送局）から依頼を受けて作曲（しょうじ）東海林太郎が昭和十一年七月のラジオ番組「国民歌謡」で歌って大評判になりました。

藤村の強い望郷の思いは、今も人々の共感を呼びます。格調高いおおらかな歌の調へと相まって、その人気は衰えません。

文・池田小百合